

# 成果指標

## 1 達成目標

### (1) 宿泊者数

北九州市：令和7年時点で宿泊者数(実人数)目標値 240 万人

仙台市：2024 年までに宿泊者数を過去最高の 650 万人泊

自治体名	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)	令和 7 年 (2025 年)
北九州市 【実人数】	192.9 万人	93.2 万人	124.6 万人	172.7 万人	240 万人
仙台市 【延べ人数】	約 624 万人泊	約 357 万人泊	—	—	—

※北九州市は国の観光統計基準により実人数を集計。

## 2 モニタリング指標

### (1) 外国人宿泊者数

自治体名	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)
北九州市 【実人数】	23.7 万人	2.6 万人	0.8 万人	1.5 万人
仙台市 【延べ人数】	約 33 万人泊	約 7 万人泊	—	—

### (2) 客室稼働率

自治体名	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)
北九州市	71.5%	44.7%	44.7%	57.5%
仙台市	約 74%	約 45%	約 47%	—

※出典：宿泊旅行統計調査 第2次速報(観光庁)

### (3) コンベンション開催件数

自治体名	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)	令和 4 年 (2022 年)
北九州市	341 件	74 件	117 件	205 件
仙台市	671 件	152 件	—	—

# 「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略2024」に対応する本市の取組方針

【概要版】北九州市観光振興プラン

## 9 プラン実現のための戦略と主な取組

仙台市活性化戦略  
プロジェクト番号

目指す姿  
「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市  
ゲストとして迎え、友人として送り出そう

戦略	取組方針	重点プロジェクト	推進していく主な取組
<b>戦略Ⅰ</b> 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ	戦略Ⅰ-1 北九州市が誇る歴史・文化・食の魅力発掘・一層の磨き上げ	重点プロジェクト1	・小倉城とその周辺の魅力向上 ・門司港レトロ・和布刈地区の魅力向上 新・市内を一望できる絶景・皿倉エリアの魅力向上 ・「ものづくりのまち」北九州の魅力を体験できる産業観光コンテンツの開拓 ・北九州市の魅力あふれる食のPRや新たな名物・おみやげものづくりの検討
	戦略Ⅰ-2 新しい魅力の発掘・創出		・若松北海岸など自然を活かした体験型・滞在型観光の促進 ・都心からアクセスしやすい自然環境(海、山、川など)で楽しめるアウトドアレジャー(アーバンアウトドア)の魅力の発信 新・民間活力を活かしたカフェ・グランピング施設などの設置 新・観る・応援する・参加するスポーツツーリズムの振興、ワーケーション、コワーキングスペースの利用者などへの観光PR
	戦略Ⅰ-3 夜景を中心とした夜型観光の魅力向上		新・宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進 ・夜間、早朝での誘客イベントの実施 ・ライトアップによる夜間景観の向上や安全安心な夜景観賞のための環境整備
	戦略Ⅰ-4 もう一か所、もう一泊を促す「プラスワン観光」につなげる観光資源、文化関連施設の「ストーリー化」		新・交通事業者などと連携した、北九州市をハブにした周遊プランの検討 新・歴史や文化などのストーリーを意識した観光モデルコースの磨き上げ ・ポップカルチャー、映画やドラマ等のロケ地など、文化芸術を活かした誘客促進 新・(再掲)観る・応援する・参加するスポーツツーリズムの振興、ワーケーション、コワーキングスペースの利用者などへの観光PR 新・(再掲)宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進
<b>戦略Ⅱ</b> ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション	戦略Ⅱ-1 市民や近郊在住者が自ら発信しなくなる仕組みづくり	重点プロジェクト3	新・パブリックアートなど気軽に発信できるフォトスポットづくりの検討 ・写真や動画等のコンテストなど市民や来訪者による発信を促す仕組みづくり
	戦略Ⅱ-2 旅マエからわくわくするディープな北九州市の発信		・観光情報サイト「ぐるリッチ!北Q州」や観光案内所での多様なニーズに合わせた案内機能の強化 ・市民もメディアも活用できるフリー素材の一層の充実 ・地域の魅力を伝える地元ウェブメディアなどの連携やSNSを活用した情報発信の強化 新・市民が自ら体験し、魅力を発信する「クチコミ」を活かす仕組みの検討
	戦略Ⅱ-3 ビジネス・MICEなど様々な目的で訪れる方への「プラスワン観光」を促すプロモーションの強化		・アフターコンベンションなどで楽しめる観光資源の一層の強化とその発信 新・(再掲)宿泊施設と連携した地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進 ・(再掲)観光情報サイト「ぐるリッチ!北Q州」や観光案内所での多様なニーズに合わせた案内機能の強化
	戦略Ⅱ-4 インバウンドへの戦略的対応		・北九州空港・福岡空港を軸にした多角的な誘客プロモーション ・大規模イベント・スポーツ大会などの機会を活かした情報発信 新・観光施設などにおける多言語案内の強化 新・観光施設などのキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進
	戦略Ⅱ-5 北九州市の強みを活かした修学旅行・産業観光のコンテンツ強化		・SDGs未来都市北九州ならではの修学旅行用メニュー、体験学習プログラムの充実 ・北九州エコタウンや響灘ビオトープなどの修学旅行・産業観光コンテンツのPR ・(再掲)「ものづくりのまち」北九州の魅力を体験できる産業観光コンテンツの開拓
	戦略Ⅱ-6 MICEやイベントなどの誘致強化		・社会ニーズに対応した産業見本市や大規模集客イベントなどの誘致・開催支援 ・国際会議、海外インセンティブツアーなど海外MICE誘致の強化 ・安全安心・快適なMICE開催のための設備・機能強化
<b>戦略Ⅲ</b> 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備	戦略Ⅲ-1 誰もが快適かつスマートに北九州市の観光を楽しめる公共交通等の利用促進	重点プロジェクト4	新・観光分野でのMaaSの活用、鉄道・モノレール・バス・タクシーなどとの連携強化 新・市内周遊バスの発行など、公共交通機関を利用した周遊促進策の検討 新・環境にも利用者にも優しいグリーンスローモビリティなど新たな移動手段の検討
	戦略Ⅲ-2 訪れる人がストレスなく観光を満喫できる環境づくり	重点プロジェクト4	新・皿倉山など観光施設のおもてなし機能の向上 新・旅の目的地となるような観光ホテル誘致の検討 新・観光庁「観光施設における心のバリアフリー認定制度」などの宿泊施設や観光施設でのユニバーサルツーリズムの推進 ・まち歩きがしたくなる居心地のよい空間づくり 新・観光施設のトイレの多機能化など計画的な改修、公衆トイレの清掃など管理手法の見直しによる「おもてなしトイレ」化の推進 新・(再掲)観光施設などのキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進
	戦略Ⅲ-3 観光DXの推進による利用者の利便性・満足度の向上や、事業者の生産性向上	重点プロジェクト4	新・観光案内機能のデジタル化の検討 新・XR(クロスリアリティ)を活用した観光コンテンツの検討 ・ビッグデータなどデジタルテクノロジーを活用したマーケティングの強化 新・(再掲)観光施設などのキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進
<b>戦略Ⅳ</b> 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり	戦略Ⅳ-1 観光関係の組織や企業・個人など、北九州市の多様な主体と連携し、推進する体制の構築	重点プロジェクト5	新・登録DMO設立への取組と、民間事業者などが主役となった推進体制の構築 新・企業が観光分野の担い手として挑戦・投資・参入しやすい環境づくり 新・観光を担う人材の育成・強化
	戦略Ⅳ-2 国、九州観光機構、県、北九州都市圏域、福岡都市圏、大分県などと連携する広域観光推進の体制づくり	重点プロジェクト2	・北九州都市圏域(18市町)による協議体の活用 ・宿泊観光・滞在時間延長につながる九州内や周辺地域との連携の充実 ・北福連携の枠組みを活かした観光プロモーションの強化 新・(再掲)交通事業者などと連携した、北九州市をハブにした周遊プランの検討
	戦略Ⅳ-3 宿泊税の用途を戦略的に検討できる体制づくり		新・宿泊税の用途を検討する外部有識者などによる会議体の設置
	戦略Ⅳ-4 災害や感染症などへの危機管理体制の強化		新・危機・災害時におけるウェブや観光案内所などでの情報発信体制の整備 新・訪日外国人も災害時などに必要な支援策や情報が入手できる体制づくりの強化
	戦略Ⅳ-5 観光振興を通じたSDGsの取組の推進		新・観光におけるEVバスへの移行など脱炭素に向けた取組の検討 新・観光事業者や観光客による脱プラスチックやフードロス削減など自然環境への負荷が少ない観光の取組の推進 新・(再掲)SDGs未来都市北九州ならではの修学旅行用メニュー、体験学習プログラムの充実
	戦略Ⅳ-6 おもてなしの機能強化・人材育成		・観光案内所の充実、スキルの高い観光ガイドの育成強化 新・趣味や嗜好で観光客とガイドがつながる新たな観光ガイドの検討 新・(再掲)観光を担う人材の育成・強化